

科目名	教職実践演習（中・高） Practical Training for Teaching Profession						
科目担当者	山本 優 YAMAMOTO Yu / 柴田 博子 SHIBATA Hiroko						
単位数	2	配当年次	4年	授業形態	演習	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 自由科目] 経営学部・経営学科 [専門教育科目 自由科目]				ディプロマポリシーとの関連	(5)(6)	
授業の概要	<p>「教職実践演習（中・高）」は、これまでの教職課程での学びや教育実習での経験を振り返ることで、4年間の学びの成果と教員としての各人の今後の課題を自覚することを目的とする。教職課程の総まとめとしての科目である。</p> <p>授業の前半では、教職課程での学びを振り返りつつ、グループディスカッションやロールプレイングといった演習や模擬授業を通して、学生同士でこれまでの学びを共有する。授業の後半では、現役教員による模擬授業や外部講師の講義を通してこれまでの学びを問い直す。</p> <p>以上を通して、各人が自身の教職に対する考え方や教師に必要な資質・能力に関する考え方や向き合い、将来教員になるうえで何が課題であるのかを自覚する。</p>						
授業の到達目標	<p>①「宮崎県教員育成指標」を参考に教職に必要な素養について理解し、これまでの学びを省察したうえで、課題や改善策を考えることができる。</p> <p>②各教科等における教育の理念やその解釈、授業展開に必要な基礎的なスキルについて理解を深める。</p> <p>③一人一人の生徒に向き合おうとする態度や信頼関係の構築を踏まえた生徒指導・学級経営について理解を深める。</p> <p>④学校教育の様々な場面における教員の役割や立場について理解を深める。</p>						
授業計画・内容	1	オリエンテーション					
	2	授業観を振り返る					
	3	生徒理解について考える① 生徒の学びを支える教師の役割					
	4	生徒理解について考える② 生徒と教師の関係					
	5	集団づくりの視点 ・ 中間レポートについて					
	6	社会科教育の授業展開の検討					
	7	学力向上の方策①中学校社会科					
	8	商業科教育の授業展開の検討					
	9	学力向上の方策②商業					
	10	情報科教育の授業展開の検討					
	11	学力向上の方策③情報					
	12	「総合的な学習/探究の時間」における取り組み					
	13	本県の生徒指導の取り組みと課題					
	14	本県の学級経営の取り組みと課題					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	各授業回のテーマに合わせて関連する授業の成果物の内容や、実習記録の内容を振り返り、要点をまとめる（毎週2時間程度）。 演習に向けた準備を行う（10時間程度）。						
授業外学修 (事後学修)	毎回の授業を通して得た学びや気づきや、他の学生の意見と自分の意見の共通点や相違点をまとめる。（毎週1時間程度）。 レポート作成に向けて、これまでの教職課程と本授業で学んだことを関連づけてまとめる（15時間程度。）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	授業中の取り組み・全体への貢献				30%	②～④	
	中間レポート				30%	①～④	
	定期試験（最終レポート）				40%	①～④	
成績評価基準	<p>秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	なし。						
参考文献	適宜配布。						
その他	授業に必要な資料を教職履修カルテにアップロードすること（授業中に指示）。						